

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂、その後の改訂も適用可能) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋アリーナ計画	階数	地上4F
建設地	愛知県名古屋港区金川町101番1の一部	構造	S造
用途地域	工業専用地域、準防火地域	平均居住人員	10,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2025年6月24日
敷地面積	27,293 m ²	作成者	
建築面積	11,567 m ²	確認日	2025年6月24日
延床面積	27,520 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 2.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 BEE = 1.0 環境負荷 L	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	 Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 3.5		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5 音環境 熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.9 機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1 生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.8		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.4 建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5 水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4 地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項		その他
総合 不特定多数が利用する大規模アリーナとして、観客の快適性を確保しながらエネルギーの高効率化を図っている。周辺環境に対しては、壁面緑化を設けることで緑化率20%を満たしながら、メンテナンスに配慮した軽やかな印象の化粧外装をまとわせ、大規模な建物の圧迫感を軽減している。		
Q1 室内環境 ・通音等級：T-2以上 ・化学汚染物質：建築基準法を満たし、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆全面的に採用。 ・換気量：30m³/h以上を確保。 ・CO2の監視：中央空調設備-CO2制御有り(中央監視)。マニュアル整備予定。	Q2 サービス性能 ・防汚性や撥水性等に優れた建材の採用。 ・廃棄物・粗大ゴミ等のスペースを十分に確保。 ・主要内装仕上材の更新間隔が長いものを選択。 ・自然災害や事故への対策として、各設備を系統分けし中水利用も可能な設計。 ・点検口を各所に設け、設備機器の更新がしやすいような設計。	Q3 室外環境（敷地内） ・街並み、景観に配慮した建物外装計画。 ・敷地内に様々な種々の緑地を計画することで、暑熱環境に配慮。 ・来場者に対して、圧迫感を与えないような外観を計画。
LR1 エネルギー ・建物内及び外灯の照明器具は全てLED照明を採用している。 ・高効率機器の導入。 ・空冷ヒートポンプチャラー（電気・ガス）を主熱源として採用している。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具やリサイクル材料を使用することで、環境資源に配慮。 ・環境性能に配慮し、地球温暖化係数(GWP)の小さい断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ・低木や地被を可能な限り配置することにより敷地外への熱的影響を低減。 ・管理用車両や荷捌き用車両の駐車施設の確保。 ・ゴミの分別回収容器の設置スペースを計画。 ・館内の飲食物提供方法として、ビン・缶にて提供しないように計画している。 ・外壁ALCはグレーとし、金属の化粧外装は反射の少ないマットな仕上げとすることでグレアを抑えている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋アリーナ計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.2
	
2. 自然共生	評価点 = 2.3
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.6
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。